

東京製網の徳島実験場で行われた
公開実験。ネットの中の黄色い物
体が衝突した重り＝那賀町内



落石防護網 性能実証

東京製網 那賀で公開実験

ワイヤロープや道路安全施設を製造する東京製網は2日、那賀町内の同社徳島実験場で、開発中の落石防護ネットの公開実験を行った。同実験場での公開実験は2010年12月以来で2回目。

自治体関係者や設計コンサルタントら約150人が

集まった。山中に設置した高さ8メートル、幅10メートルのネットに、55メートル高い位置から480キログラムの重りを衝突させた。ネットは重りを受け止め、衝撃を吸収する性能を実証した。

ネットは高強度の金網と緩衝装置を組み合わせ、網全体で衝撃を吸収する仕組み

み。小さめの落石を想定した200キログラムの耐力を持つ。同社では耐力400キログラムの製品開発も進めており、年内の製品化を目指している。

同社の担当者は「開発過程を公開し、製品の信頼性をアピールできた」と話した。実験場の詳細な場所は公表していない。同社は東証プライム上場でワイヤロープ最大手。（林啓二）